

# 我が街の記念碑

## 非核都市宣言塔

JR中野駅 徒歩2分



区役所を訪れた中野区民を出迎える宣言塔



【中野・設計・賞豊通信員】『非核都市宣言塔』が立つて中野区は、元中野区体育館があった場所に、2024年春に向けて区庁舎の建替えを進めています。

区長に宣言を求めたこと始まり。その後、当時の青山良道中野区長が、8月15日に日本全国をはじめ、全世界に向けて、『非核都市宣言中野』を宣言。その1年後に中野駅北口前ロータリーに二代目が建てられました。1万2000人へのぼる中野区民の熱い願いを込めた請願書を基に、中野区議会が超党派の圧倒的多数で採決。中野

### 区民の願いから誕生 三代目デザインも検討中

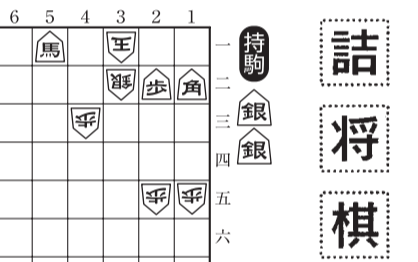
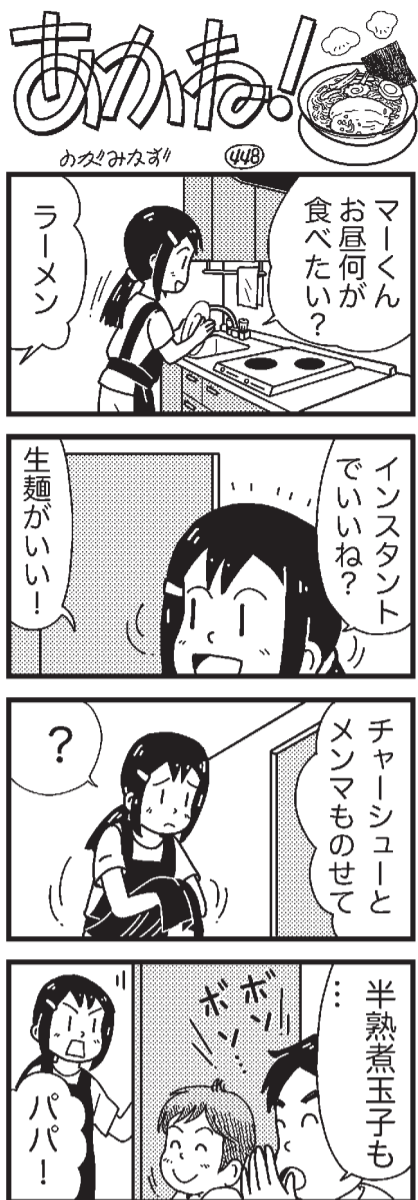
足元に、銅版で刻まれた記念碑があり、『憲法を大切に、世界中の人びとと手をつなぎ、核をもつすべての国

に核兵器をすてよ」と訴える」と書かれています。その当時の中野区は、教育委員選挙を実施して革新区政を進めて、日本の中でも、中野区全体が元氣な時期だったような気がします。

今年には節目の40周年で、安保法制(戦争法)の廃止をめざす中野アピール実行委員会主催で、アピール行動、平和行進に取り組んでいます。

新しい区庁舎建替え工事で、この塔がどうなるのか気になります。区の平和関係の担当者に確認したところ、現在の塔は、時計台を兼ねていて機能も古く部品の調達ができず、そのままの移築は無理です。今進めていることは、新しい三代目の塔のデザインを検討し、新庁舎の西南の角に設置する予定ですとのこと。

中野区の平和運動は、これからも引き継がれます。



持駒 銀 銀 馬 王 歩 角 卒 卒 卒 卒 卒 卒

林芳正外務大臣は趣味が音楽で、「音楽外交」の展開に力を入れているという。昨年12月には、リパブルで開かれたG7外相会合の夕食会で「イマジン」を、今年8月にはチュニジアで「レットイットビー」をピアノで披露して拍手をもらった。

ただ、失敗もある。今年5月のバイデン大統領来日の際には、同行のプリンケン國務長官にヒートルズでのセッシヨンを繰り返して呼びかけたが、にべもなく断られたという。外務省は否定しているが、TPOをわきまめるのは当然として、アメリカ代表にはアメリカの音楽で呼びかけるべきだったのでは。

2018年7月27日、著者である橋本佳周(よしちか)氏は、腹痛と倦怠感を感じて会社を早退。自宅近くの病院へ向かう。そこで待っていたのは医師からの末期がん宣告。まさに青天の霹靂、言葉にならない衝撃が彼を襲った。

皆さんも友と言えぬ人は何人もいるでしょうが、親友となるとごく少数ではないかと思えます。

私の親友との出会いは小学低学年の頃で放課後は毎日のように二人で遊びました。彼の父親が九州山岳会の会員と

その後、彼は長崎に引っ越しましたが、毎年高校まで夏は自分の九重の山小屋で小屋の手伝いをしながら10日間程度、冬は鳥取の大山で冬休みのほとんどをスキーをして過ごしていました。

それが40年過ぎ、遺影の彼は大学生のままですが、このところ心の中で話しかけています。(文京)



急逝から40年過ぎて尚 心の中には親友が

私がかつて2年目の2月に病気のために東京の寮で臥せていると、寮の管理人から電話ですよと取り次いでもらったのが、その親友の訃報でした。その親友が馴染み深い大山で滑落死したとのこと。つい数日前に京都大学大学院に合格したと手紙が来たばかりなので、信じられずすぐに通夜が行なわれる福岡へ行きまして。

当時52歳の著者は、新潟日報社で社説や一面コラムなどを担当。生々しい死の恐怖におびえながらも、闘病の記録を発信していくことを決意し、翌年2月から「52歳記者のがん日記」と題して連載を開始する。本書は昨年年末まで100回近く続いた連載をまとめたものだ。

死に向き合いつづいた闘病の記録

「ステージ4」の衝撃... ベンとロックで闘った「いのち」の記録

2018年7月27日、著者である橋本佳周(よしちか)氏は、腹痛と倦怠感を感じて会社を早退。自宅近くの病院へ向かう。そこで待っていたのは医師からの末期がん宣告。まさに青天の霹靂、言葉にならない衝撃が彼を襲った。

当時52歳の著者は、新潟日報社で社説や一面コラムなどを担当。生々しい死の恐怖におびえながらも、闘病の記録を発信していくことを決意し、翌年2月から「52歳記者のがん日記」と題して連載を開始する。本書は昨年年末まで100回近く続いた連載をまとめたものだ。

死に向き合いつづいた闘病の記録

Advertisement for the book '52歳記者のがん日記' (52-Year-Old Journalist's Cancer Diary) by Takahashi Takahiro. It features a photo of the author and a quote: 「ステージ4」の衝撃... ベンとロックで闘った「いのち」の記録.